

希少な日本産アコヤガイの保全と 天然採苗技術開発にかかる試験研究事業

藤原正嗣・栗山 功・矢野 央樹・西川次寿

目的

日本在来の天然アコヤガイが生息する海域において、アコヤガイの保全を図りつつ、人工種苗生産に用いる親貝を安定的に確保することを目的に、天然採苗技術を確立する。

方法

1 天然採苗試験

平成30年5月30日から11月16日まで、日本在来の天然アコヤガイが生息する県南部の湾に採苗器を設置した。採苗器は買い物カゴに25cm×25cmの寒冷紗を3枚吊したものと120cm×45cmのネット（一部チョウチンカゴ）に杉葉を入れたもの、昨年度使用したトリカルネットを筒状にしてチョウチンカゴに入れたものを用いた。採苗器は湾奥部を起点に湾の南側沿岸4ヶ所（湾奥部からNo.1～4）と北側沿岸2ヶ所湾奥部からNo.5～6）に等間隔で設置し、設置水深は2mとし、採苗器の種類と設置数は表1に示した。

稚貝の付着状況の確認は1～2ヶ月毎に採苗器を引き揚げ、採苗器毎に目視により付着しているアコヤガイを確認した。

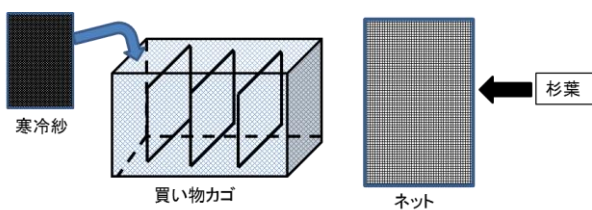


図1. 採苗器

表1. 採苗器設置数

	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	計
トリカルネット	2			1			3
寒冷紗	2	3	3	3	2	2	15
杉葉(ネット)		3	1	7	1		12
杉葉(カゴ)				2		1	3
計	4	6	4	13	3	3	33

2 飼育試験

平成30年4月19日から平成31年2月14日まで、平成29年度に天然採苗で採取したアコヤガイ26個を丸カ

ゴに収容し、No.4に設置しているイカダから水深2mに垂下して飼育し、成長を追跡した。

結果及び考察

1 天然採苗試験

11月9日に全ての採苗器を取りあげ、アコヤガイ付着を計数し、結果を表2に示した。アコヤガイは全ての地点

表2. アコヤガイの付着状況結果

	採苗器種類	設置個数	付着個数
NO.1	トリカルネット	2	14
	寒冷紗	2	3
NO.2	寒冷紗	3	7
	杉葉(ネット)	3	33
NO.3	寒冷紗	3	14
	杉葉(ネット)	1	2
NO.4	トリカルネット	1	6
	寒冷紗	3	13
	杉葉(ネット)	7	73
	杉葉(カゴ)	2	30
NO.5	寒冷紗	2	3
	杉葉(ネット)	1	5
NO.6	寒冷紗	2	2
	杉葉(カゴ)	1	5

で採取され、総採苗数は210個であった。採苗器当たりの採苗数は杉葉(カゴ)が11.7個、杉葉(ネット)が8.6個と杉葉の成績が良かった。

採苗されたアコヤガイの殻長は11.8～55.2mm（平均32.6mm）、殻高は10.6～58.6mm（平均31.1mm）で大きさにはバラツキがあった。

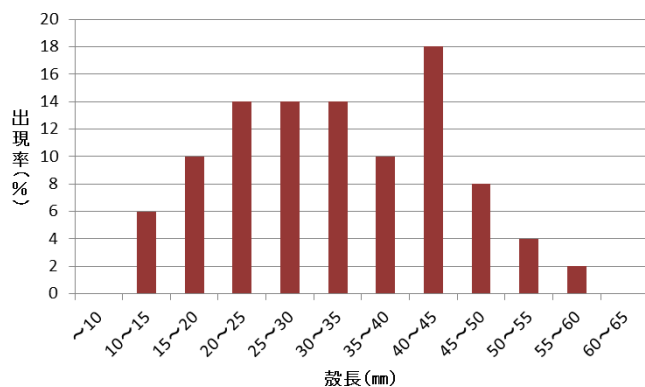


図2. アコヤガイの殻長組成

2 飼育試験

平成 29 年に採取したアコヤガイ 26 個を平成 30 年 4 月から平成 31 年 2 月まで丸カゴで飼育した。試験開始時平均殻長 53.8 mm，平均重量 22.4g であった貝は，平成 31 年 2 月 14 日には平均殻長 89.6mm，平均重量 94.1g となり，5 月～10 月の成長が良かった（表 3，図 3）。期間中のへい死はなかった。

表 3. アコヤガイ測定結果

月日	殻長(mm)			殻高(mm)			重量(g)		
	平均	最大	最小	平均	最大	最小	平均	最大	最小
4/19	53.8	70.3	39.5	52.8	69.5	38.6	22.4	37.2	10.2
5/30	57.6	76.1	40.7	55.5	67.5	38.1	27.9	45.0	11.2
8/10	68.6	87.6	48.6	68.6	87.6	48.6	46.4	68.1	19.9
10/12	78.9	97.1	60.0	77.3	89.7	61.4	68.4	92.7	32.2
11/16	83.8	104.6	64.9	80.7	95.1	64.6	77.2	104.0	39.0
1/24	88.7	105.6	68.6	86.0	98.6	70.8	91.9	128.7	47.8
2/14	89.6	109.8	70.0	86.5	99.4	70.9	94.1	134.7	48.4

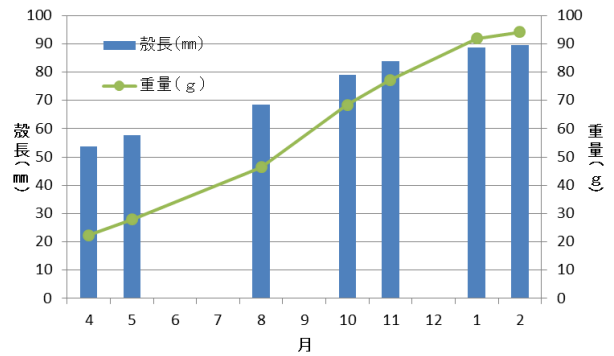


図 3. 飼育期間中の殻長と重量の推移